

**第143号**

編集と発行
中部農業改良普及センター
〒904-2155 沖縄県沖縄市美原1丁目6番34号
(沖縄県中部合同庁舎2階)
電話 098-894-6521
FAX 098-937-2502

しっかり実施！サツマイモ基腐病対策**サツマイモ基腐病とは**

本病の症状は株元が褐色や黒色に変色し、つるが枯死します。

さらに地際部から芋まで症状が進行すると、なり首から褐色や黒色に変色し、腐敗します。多発すると経済的被害が甚大ですので、対策をしっかり行いましょう。



症状が出た芋の切断面

対策ポイント1 畑に病気を入れない

栽培にあたっては健全な苗を確保することが大切です。採苗は基腐病の症状(立枯れ・腐敗等)がない畑から行い、消毒をしてから植え付けましょう。

- ☑ 基腐病が発生した畑からは、種芋やつる苗を採らない。
- ☑ 苗床を設置する場合は、前作に基腐病の発生がない畑を選定する。
- ☑ 苗は植え付ける前に消毒^{※1}を行う。

対策ポイント2 畑で病気を増やさない

基腐病が多発すると、残渣等から次作へも影響を与えます。また、基腐病の症状は、ゆっくりと広がるので、できるだけ畑にある期間や保存期間を短くしましょう。

- ☑ 前作で発生があった畑には植え付けない。
- ☑ 排水対策を実施する。
- ☑ 定期的な薬剤散布^{※2}を行う。
- ☑ 発生状況を確認し、発生があれば早期収穫を検討する。
- ☑ 収穫後の残渣を残さない(速やかな分解を促す)。



株元の変色と萌芽

対策ポイント3 他の畑へ拡げない

感染拡大を防ぐため、発生した畑から、未発生の畑に芋や苗、土壌の移動を避けましょう。また、可能な限り連作は避け、他品目と輪作を行いましょう。

※1 苗消毒は「ベンレート水和剤」「ベンレートT水和剤」の登録有り。

※2 散布剤は「Zボルドー」「ジーファイン水和剤」「アミスター20フロアブル」の登録有り。

農薬使用の際はラベルの記載事項を確認し、使用方法を遵守してください。

中部地区から5名の新たな農業士が認定されました！



前列左からノーマン裕太ウエイン氏(青年農業士)、栗林飛馬氏(青年農業士)、長堂政也氏(指導農業士)、池原淳次氏(指導農業士)、山城善市氏(指導農業士)

「指導農業士・女性農業士・青年農業士」の認定制度は、農業技術に優れ、地域農業振興に尽力されている農業者を地域農業の実践的指導者として、沖縄県知事が認定する制度です。令和3年度中部地区から、青年農業士2名、指導農業士3名の計5名の農業士が認定されました。

●指導農業士 山城 善市 (沖縄市)

県共進会等で数々の賞を受賞し、独自ブランドとして「山城牛」を創出し、高い生産技術力、経営管理能力を有する。また、長年、研修生受入を行い、地域農業振興活動に尽力されている。

●指導農業士 池原 淳次 (うるま市)

高い栽培技術力を評価されており、マンゴー栽培優良事例として現地検討や視察受入を行い、新規就農者に対する研修受入支援など積極的に対応し、地域農業振興活動に尽力されている。

●指導農業士 長堂 政也 (うるま市)

中部地区和牛改良組合やJAおきなわ与那城青壮年部等の組織役員として活躍されており、小中学校の職場体験学習等の受入など地域支援活動に貢献され、また子牛共進会等での受賞歴があり、繁殖経営技術が高く評価されている。

●青年農業士 ノーマン裕太ウエイン (うるま市)

小中学校や農林高校等の職場体験等の研修受入を行い、地域貢献活動を行っている。中部地区農業青年クラブ会長、九州地区農業青年クラブ会長を歴任し、さらうるま市農業委員会副会長、うるま市商工会理事などの組織リーダーを務め、多岐に渡り活躍されている。

●青年農業士 栗林 飛馬 (中城村)

地元学童向けに収穫体験活動などを行い、地域貢献活動に協力的である。また中城村において14年ぶりに中城村農業青年クラブの活動再開に尽力され、組織活動を牽引し、組織リーダーとして活躍されている。

(普及企画班 座喜味 利将)

沖縄県農林漁業賞

～受賞された皆様、おめでとうございます！～

令和4年1月22日(土)～23日(日)に開催を予定していた「おきなわ花と食のフェスティバル2022」は新型コロナウイルス感染症の防止の観点から中止となりましたが、中部管内から下記の受賞者が決定しています。

沖縄県農林漁業賞 園芸部門 個人 赤嶺 清志 氏 (うるま市 天草)
園芸部門 個人 島袋 孝一 氏 (沖縄市 小ギク)
園芸部門 個人 島袋 孝栄 氏 (沖縄市 小ギク)

受賞された皆様、おめでとうございます。これからも、中部管内の農業振興にご協力をお願い致します。
(農業技術班 宮城 明生)

第49回毎日農業記録賞にて「優秀賞」を受賞

毎日農業記録賞は毎日新聞社が主催し、「農」や「食」、「農に関わる環境」への思い、体験の記録、提言などを内容とした作品を審査、表彰するもので、1973年から創設された賞です。

今回、沖縄市で葉野菜を栽培している仲宗根^{たくみ}工さんが応募した作品「農業でなにが出来るか」が、一般部門で「優秀賞」を受賞しました。

受賞した作品は、自身が就農に至った経緯や独自の栽培方法、食育への取り組みを綴ったもので、仲宗根さんの農業に対する熱い思いが評価されました。

仲宗根さん、おめでとうございます！

(普及企画班 松村 美佳)



仲宗根工さん(左)と神村所長(右)

認定農業者のみなさん、期限内に再認定手続きを！

市町村から認定を受けている認定農業者の有効期限は**5年間**となっており、有効期限が過ぎて再度一から新規認定書類を作成する事例が見られます。

特に認定が要件となっていた補助事業で機械や施設等を導入した農業者やスーパーL資金等の農業制度資金を借り入れしている農業者の皆さんは確実に認定を更新する必要があります。

再認定の場合、申請書類の添付資料が簡素化されていて作成しやすくなっています。

また有効期限が過ぎても一定の猶予期間が設定されている市町村もありますので、詳細は認定された市町村の農政担当課へお問い合わせください。

期限内に再認定手続きを実施し、継続的に経営改善に取り組みましょう！

(普及企画班 松村 美佳)

北中城村におけるパッションフルーツ産地育成 ～排水不良の農地を克服して単収アップを目指す!～

令和2年度より北中城村において、地域農業振興総合指導事業を導入し、「パッションフルーツ産地育成」の課題に取り組んでいます。北中城村のパッションフルーツほ場の多くは排水性が悪いジャーガルほ場で栽培が行われています。そのため、立枯症が発生しやすく単収が低い状況にあります。

昨年度より、現地技術組立実証展示ほを設置し、高畝栽培で株の立枯症を抑制しながら単収向上を図ることを目的に取り組んできました。



排水不良農地の状況
(水分含有率が35%以上)



令和2年度現地技術組立実証展示ほ



令和3年度現地技術組立実証展示ほ



リーダー研修会



パッションフルーツ栽培技術向上講習会

昨年3月に行われた北中城村長表敬訪問では、展示ほ農家のパッションフルーツ贈呈が行われました。展示ほの実績より、高畝設置前の立枯症の発症率は46%でしたが、設置後は2%未満と大幅に改善され、品質、収量ともに向上したことが報告されました。

さらに、展示ほ農家より、「北中城村のパッションフルーツは10年以上前から栽培されていますが、近年、生産者が減ってきている中で復活させたい思いがあります。北中城村といえばパッションフルーツと言えるくらい盛り上げていきたい」と力強い挨拶がありました。

令和4年度も、パッションフルーツで産地が盛り上がるよう、関係機関が一丸となり全力で取り組んでいきます。

(普及企画班 川満 雅子)



北中城村長表敬訪問

